



# 学校訪問

部活動

学校自慢



▲床の間に置かれた四季折々の花と飾り ▲みんなで仲良くお稽古しています

## 南千住第二中学校

南千住7-25-1

### 生徒が部活動を紹介し茶道部

私たちが南千住第二中学校茶道部は、1年生5名、2年生4名、3年生8名の計17名で男女ともに月に2回の金曜日に活動しています。顧問は長田先生で、講師は松木先生です。主な活動は、立ち居振る舞いや帛紗の扱い方などの基本の所作の練習から、茶室に入り床の間を拝見し、茶と菓子を入り床の間などの本格的な作法や心得などのお稽古です。ほとんどの部員が初心者ですが、覚えることも多いですが、先生方に優しく、時には厳しく指導を受け、学年を越えて仲間がよいので、お互いに楽しく教え合うことも多く、入部から半年ほどでお茶を点てられるまでに成長できます。毎回、お稽古の後には、亭

執筆者 木下 莉利沙 3年

## 第七峽田小学校

町屋8-19-12

### 学校の自慢を児童が紹介します



▲タブレットを使った調べ学習



▲楽しいお店がたぐさんの七峽フェスティバル

第七峽田小学校には自慢がたくさんあります。まずは、校庭です。七峽小の校庭はとても広く、全校児童が外に出て開放的に遊べます。また、ピオトップ、緑の小道もあり、児童が自然に触れ合うことができます。次は、学習についてです。タブレットを活用して調べ、パワーポイントでプレゼンテーションの学習をしています。また、プレゼンテーションを聞き合い、みんなで意見を出したりもします。他には、月に一度、詩と俳句を作っています。詩は季節や行事に合ったテーマから作ります。俳句は季節を入れたりリズムを工夫したりして作ります。児童一人一人の個性があふれているので、大変ですが、お客さんがたくさん来てくれるととても嬉しいです。私たちが卒業しても、笑顔いっぱい団結力が強い第七峽田小学校であってほしいです。執筆 6年 原田 紗音

休み時間に元気になると、作っているときも友達と作品を読んでいるときも心が豊かになります。そして、七峽フェスティバルです。七峽小の行事の中で最も盛り上がる行事で、クラスごとに内容を考えます。縁日のようなゲームやおぼけやしきなどの楽しいお店があります。何日も前からみんなで協力して準備をしています。大変ですが、お客さんがたくさん来てくれるととても嬉しいです。私たちが卒業しても、笑顔いっぱい団結力が強い第七峽田小学校であってほしいです。執筆 6年 原田 紗音



▲おもてなしの心が込められた掛け軸

主と正客に分かれ、床の間に置かれた掛け物と花・花入れの諸かざりなどについて会話を交わります。季節感や亭主のおもてなしの精神を感じ取り、日本の歴史や文化に触れることができる大切な時間です。このように詫び寂びの心を学ぶのも茶道部の重要な活動であり、大きな魅力のひとつではないかと感じます。今後、「和敬清寂」の茶道の精神を大切に、部員一同で活動していきたいです。執筆 部長 3年 木下 莉利沙

**吉村昭 福井県 記念文学館 ふるさと文学館**

**「おしどり文学館協定」を締結**

11月5日、ゆいの森あらかわで「おしどり文学館協定」の締結式が行われました。当日は、「ゆいの森あらかわ名誉館長」で「福井県ふるさと文学館特別館長」でもある福井県出身の芥川賞作家、津村節子さんが立会人。津村さんと吉村昭さんは「おしどり夫婦」として有名で、お二人にゆかりがある文学館同士も「おしどり」となりました。今後は展示の共同開催などを予定しています。

左から西川福井県知事、津村節子さん、西川区長

**初めの誕生日は文禄3年**

えつ、千住大橋は423歳

12月になると、クリスマス、大掃除、年越しの準備が年末まで続き、何となく気ぜわしいね。ところで、12月の12日って、何の日か知ってる？ ヒントは、とても大切な文化財に関する記念日だよ。正解は、国道4号線に架かる千住大橋の誕生日。なんと90歳なんだって！

**あらかわ今昔ものがたり**

**あらかわの歴史と伝説**

その113 千住大橋の二つの誕生日

—大橋は今年で90歳?—

「あらかわ区報 Jr.」の読者は、よく知っているね。確かに、千住大橋は、今から400年以上前、文禄3年(1594)に徳川家康さんの命令によって架けられた橋だね。この頃の橋は、木か石で造られていることが多かった。川幅が広く、流れが急なところに石を積んで橋を架けるのはとても大変。大きな橋の場合、ほとんどが木で造られたんだよ。

千住大橋は、家康さんが土木工事名人の伊奈忠次さんに江戸の北の玄関口として造らせた、とても重要な橋だったんだよ。当時は、隅田川に千住大橋しか架かってなかったから、単に「大橋」と呼ばれていたんだって。今も「大橋」のプレートが、据え付けられている。

架橋の後、そして江戸時代になっても、幕府や千住大橋の両岸の材木問屋さんたち地元の人びとによって、大切に

守られてきたんだ。材料も吟味され、最高のものを調達し、高度な技術で造られたから、至って頑丈な橋だったんだってさ。

**江戸に会いに千住大橋へ**

明治時代になってからは明治政府が橋の管理をしたんだ。下流の橋が、次第に鉄橋に変わっていったのにも関わらず、千住大橋は木の橋のまま使われ続けたんだって。小説家の幸田露伴さん、森田草平さん、版画家の戸張孤雁さんなんかも、江戸が懐かしくなる木橋の千住大橋を訪れ、作品に残したんだよ。

**「奥の細道矢立初めの地」子ども俳句相撲大会**

**参加者(作品)募集**

トーナメント方式で横綱(優勝)の座を競い合います。3月10日(土)の千秋楽(本大会)を目指して、ぜひ、投句してください。

**対象** 区内在住・在学の小学生

**応募方法** 1チーム2人1組で、2句の俳句(お題は「春の季節」)を作成し、2人の住所・氏名・電話番号・学校名・学年・チーム名・チーム名の由来・意気込み(氏名とチーム名はふりがなも)を明記し、持参または郵送で、1月10日(水)必着 ※選考の上、千秋楽出場チームを決定します ※応募作品は返却しません

**応募・問合せ** 〒116-0003 荒川区南千住6-63-1 荒川ふるさと文化館 ☎(3807) 9234

**2度目の誕生日は昭和2年**

大正11年(1922)、そんな千住大橋にも、ついに鉄橋化計画が持ち上がった。国道4号線に路面電車を通すための改修工事をする事になったんだ。設計はアメリカで技術を学び、全国80の鉄橋を手掛けた増田淳さん。でも、大

**問合せ** 荒川ふるさと文化館 ☎(3807) 9234

**絵葉書「大東京の十六大橋」** (荒川ふるさと文化館蔵)

90年を迎えた。「ブレースドリブ・タイドアーチ」という形の橋で、現存する最古の例なんだってさ。すごいね。次は100歳。木橋の時代からだと433歳を目指し、みんなで大切にしていきたいね。

正12年(1923)9月1日、関東大震災が東京を襲った。これで工事は遅れたけれど、昭和2年(1927)12月12日、開通式が行われ、地元の人々の祝福されたんだ。千住大橋は今年で鉄橋化90年を迎えた。「ブレースドリブ・タイドアーチ」という形の橋で、現存する最古の例なんだってさ。すごいね。次は100歳。木橋の時代からだと433歳を目指し、みんなで大切にしていきたいね。